

精神科医の使用経験を通した、エスシタロプラムの有用性の検討

久保田祐子、 康 純、 金沢 徹文、 米田 博
(大阪医科大学 神経精神医学教室)

エスシタロプラムは、2011年発売の新しい抗うつ薬である。日本国内では4種類目の選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）であり、他のSSRIと比べ、セロトニン再取り込み阻害作用の選択性が高いという特徴を有する。半減期が長く、内服回数は1日1回であり、相互作用は比較的少ない。初期投与量が治療用量であり、漸増の必要がないため、用量調整が簡便であり、プライマリーケア医にも比較的使いやすい薬剤である可能性がある。

海外でエスシタロプラムの有用性に関する報告がなされているが、国内では、エスシタロプラムに関する報告はまだ少なく、臨床経験も十分蓄積されていない。そこで今回、エスシタロプラムの有用性に関する検討を行った。大阪医科大学神経精神医学教室の同門会に所属する、熟練した精神科医師24名に、エスシタロプラムの使用実感に関するアンケートを実施した。内容は、エスシタロプラムの効果、副作用、適した症例など、実臨床にも役立つものを中心とした。21名から回答を得た。そこから得られた知見を、若干の考察を含めて報告する